NEWS and TOPICS

“リノベーショングルア”を提案
オーバーホールを超えた先進機能を付与

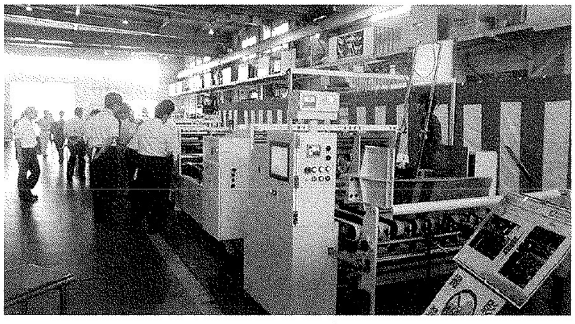
株式会社日本紙工機械グループ

日本紙工機械グループ（茨城県北相馬郡利根町、☎0297-61-7117）は、古い機械に最新の機能と制御機構を装備し、時代のニーズに対応した品質を実現する“リノベーション”というコンセプトを紙工業界に提案していく。7月25、26日の両日、その成果の第一弾として「リノベーショングルア」の見学会を開催した。

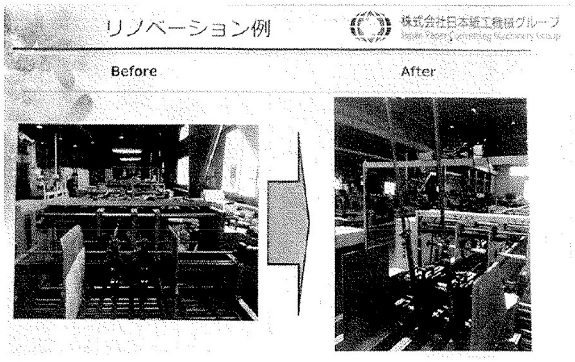
同社が提唱するリノベーションとは、新台当時の性能を復元することを目的としたオーバーホールとは一線を画し、「用途や機能を変更して性能を向上させたり、時代のニーズに合わせた付加価値を与える」ことをめざす。

今回、公開運転を行った段ボール用グルア（1400㎜タイプ）は、25年近く稼動していた機種。堅牢なフレームを生かしながら大きく10カ所※のリノベーションを施した。

同社が製造販売している旧タナベ製「ワンタッチケースグルア」は1981年、世界初のマイクロコンピュータ装置を搭載した。開発から30年以上を経て、マイクロコンピュータは“第4世代”が主流になっている。すでに初代～第2世代搭載機は、部品調達が不可能な状況で、古いタイプの機械は大きなリスクを背負っている。これを最新の制御装置に更新し、



リノベーションを施した段ボール用グルア



「ビフォー・アフター」で違いを紹介

数々の先進機構を搭載することで、今後25年の使用も可能になるという。また、「異品種混入バーコード検査装置」「黒色対応高性能センサー」など同社が次世代グルア向けに開発している新開発の機構も実験的に搭載し、注目を集めた。

小崎享社長は「同社がラインナップしている板紙用の小型機から段ボール用の大型機まで、あらゆるタイプのグルアにリノベーションを展開していきたい。新台よりも値ごろ感のある価格で提供することが可能だが、価格だけでなく、旧型機をリノベーションして、特殊形状の箱の専用機として活用するなどさまざまな可能性がある。ユーザーの製造現場を活性化させるための選択肢の一つとして考えていただければ幸いだ」と話している。

※今回実施したリノベーション（抜粋）

1) フィーダーを単独インバーターへ変更
2) シャッター紙押さえがチェーン式からエアシリンダー式へ
3) フォールディングベルト駆動が変速機から左右インバーターへ
4) メインモーターにインバーターを搭載し省電力化